



公的年金制度の財政健全化を

経済学者等で作る「政策構想フォーラム」が、公的年金改革のシナリオを発表した。修正積立方式で運営されている現在の公的年金を、賦課方式の「基礎年金部分」と、個人勘定の掛金建て年金（積立方式）の「報酬比例部分」に完全分離するという案である。

具体的には、1980年代生まれの人から適用を始め、1979年以前生まれの人は、現在の給付を大幅カットするという。この大胆な案は、スウェーデンの年金改革（1999年施行）に類似している。

スウェーデンでは、毎月の保険料（18.5%）のうち2.5%は、個人勘定の掛金建て年金として運用し、残り（16%）は、仮想的な掛金建て制度とする内容である。仮想的というのは、拠出金を実際に市場で運用せず、賦課方式で運営され、受給者の給付財源とされるからである。その結果、給付は縮小したが、年金財政は大いに健全化した。

わが国においても、年金財政の健全化は喫緊の課題である。公的年金改革には痛みを伴うが、国民の不信感を拭い去らないと、消費主導の景気回復もおぼつかないのではないだろうか。

《目次》

- ・ 公的年金：ある家族の新年会での年金談義（3）
- ・ 年金運用：マネージャー・ストラクチャーを考える（下）
- ・ 年金運用：浮動株を考慮した株価指数（上）